

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 9 回相模原市観光振興審議会				
事務局 (担当課)		環境経済局経済部商業観光課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)				
開催日時		平成 3 0 年 8 月 1 0 日 (金) 午後 2 時 0 0 分 ~ 4 時 0 0 分				
開催場所		相模原市立産業会館 4 階 懇談室 (中研修室)				
出席者	委員	6 人				
	その他	-				
	事務局	9 人 (経済部長、他 8 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 相模原市観光振興審議会の概要について 3 会長・副会長の選出 4 議題 (1) 平成 3 0 年度の主な取組について (2) 次期観光振興計画について (3) その他 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 相模原市観光振興審議会の概要について

事務局より当審議会の概要について説明を行った。

3 会長・副会長の選出

相模原市観光振興審議会規則第3条第2項の規定に従い、会長及び副会長を委員の互選により次のとおり定めた。

会 長 内藤 錦樹 委員（桜美林大学名誉教授、観光振興アドバイザー）

副会長 北村 美仁 委員（一般社団法人相模原市観光協会専務理事）

4 議題（ は委員、 は事務局の発言）

内藤会長が議長となり議事を進行した。

（1）平成30年度の主な取組について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

主な意見等

旅行博などへの出展については、民間企業からも協力できることがあるかもしれない。地域の企業も含め関係団体等と協力し本市を効果的にPRしてほしい。

今回の出展については、市観光協会との連携により、高尾山から藤野・相模湖方面へのハイカー誘客を目指したブース等の設置を検討しているところである。

市外からの誘客の推進にあたっては、地域の企業や関係団体等と協力し効果的なPRを行っていきたい。

外国人観光客も多く訪れる高尾山から藤野・相模湖方面へハイカーを誘客するのは良いことである。

高尾山から藤野・相模湖方面に向うハイキングルートには、「東海自然歩道」が含まれるが、その管理は神奈川県が行っている。県に対し自然歩道の足場や道標等に津久井産木材を使用してもらえるように働きかけをしたほうがよい。

また、景観伐採をするなど、県の協力を得ながらハイキングルートの環境を整えていくべき。

来年度、東海自然歩道協議会の総会が本市で開催される予定であり、これを契機に関係団体等に働きかけて、東海自然歩道を盛り上げていきたい。

実際に、東海自然歩道を東京から大阪まで歩いたことがあるが、自治体で歩道の整備にかなりの差があった。神奈川県は綺麗に整備されているほうであり、県には今後も適正な管理を継続してもらいたい。

また、以前、市民の森検討委員会に参加していて、石老山を中心に相模湖周辺を活性化させようといった計画があったが、現在の状況はどうなっているか。

本年度から3ヵ年に渡り、協働事業提案制度を活用し相模湖商工会と協働して「高尾山・石老山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業」を実施する。

具体には津久井産材を使用した道標（英語対応）の整備を行うほか、ハイキングガイドの養成、ハイキングイベントの開催等を段階的に行う予定である。道標の整備等にあたっては東海自然歩道の管理者である県と調整を図っていきたい。

市民の森については、その基本計画に基づいて実現に向けた取組を進めているところである。最近の活動としては、市民が森林に触れ親しむ機会の提供として、民間テーマパークとの連携により、石老山における森林体験やハイキングと温泉入浴がセットとなったプログラムを9月に実施する。

（2）次期観光振興計画について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

主な意見等

2027年にリニア中央新幹線が開通予定だが、それまでに相模原市としてどうなりたいかの軸となる考え等を定めるべき。橋本駅の立地を活かしたMICEが出来れば他市にはない相模原市独自の強みとなる。また、リニアの車両基地も相模原市独自の観光資源に成り得る。相模原市独自の計画を策定すべき。

現在の計画では、エリア別にいくつかに分けられているが、市全体が一体となって観光・商業を推進していくことが必要になってくる。また、相模原市には、JAXA、研究所、大学が集積し、多数の外国人留学生在籍していて、様々な人材が集まっている。今後、観光振興における専門的人材の確保が課題となってくるが、これらの人材を活用していくべきである。

今回の資料は、あくまでも計画の構成例として示したものである。

本市の総合計画の策定期間と合わせて次期観光振興計画の策定期間も8年を予定しており、本市の観光の将来的なビジョンは総合計画と歩調を合わせて方向性を示していきたい。

地域別計画については、地域の方々が中心になって策定し、その計画に基づく取組を地域が一体となって推進しており、本市の観光振興にとって大変重要なものとなっていることから、それらの取組について引き続き支援をしていきたいと考えている。

現計画では、観光資源の状況などを考慮した9つのエリアに区分し、エリア別計画を定め、各地域の個性を生かしながら観光振興を推進しているところであるが、「エリア別計画」と「地域別計画」の位置付けの違いが分かりづらいなどの指摘もあることから、その必要性も含めて検討していきたい。

JAXAや研究所といった産業面については、計画策定に係るワーキンググループに産業政策課等の関係各課が参画しているので、これまでにはない視点をもって議論していきたい。

次期観光振興計画の策定にあたっては、市として何をPRしていきたいか等の戦略的な検討を進めてもらいたい。

現実問題として、地域の観光振興の担い手の多くは高齢化が進んでおり、定年延長が言われている中、今後ますますこの傾向は強くなると思う。

地域にリーダーとなって引っ張っていく人材の発掘や、担い手不足が大きな課題となっている。

観光によって経済効果を生み出すことを柱に取り組んでいるが、このように担い手の遡減の問題もあり、地域経済の活性化にまでなかなか結びついていかない。

次期観光振興計画の策定にあたっては、本市が観光振興に取り組む目的について「地域振興」と「経済振興」の2つの側面から整理を行うことで、本市にとっての観光振興とはどのようなものなのかをしっかりと検討していく必要があると考えている。

計画を推進するにあたっての行政や観光協会等の役割、財源、計画のPDCAサイクルの管理方法などを整理しながら、計画の推進体制の見直しを図る中で、人材確保策についても検討していきたい。

KPIの設定は非常に重要だと思うが、成果を計るための調査は継続的に取り組むべき。以前、外国人の宿泊調査を実施したと思うが、それを継続して行うべきである。継続して実施することで、外国人観光客の動向等がわかってくるはずである。国や県等で公開しているデータも積極的に活用していくべきである。

限られた予算の中、調査の方法やどのデータをもって現状を把握していくのか、検討してKPIを設定していきたい。

観光消費額とは何に消費されているものなのか。また、本市の観光消費額は、なぜ県内の平均額と比較して低いのか。

観光消費額とは、観光に伴う飲食やおみやげの購入等の費用、交通費、宿泊費の額である。本市の消費額が低い理由として、日帰り観光客が主であり、宿泊客が少ないことが要因として考えられる。

(3) その他

事務局から平成29年度に広域観光周遊ルート形成促進事業において実施された「広域関東における調査事業」の結果概要について説明を行った。

以上

相模原市観光振興審議会委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専門家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
公募委員	高橋 陽子	公募委員			出席
関連団体	北村 美仁	(一社)相模原市観光協会	専務理事	副会長	出席
	大貫 幸雄	大島観光協会	会長		出席
	佐藤 泉	相模湖観光協会	会長		欠席
	関戸 昌邦	津久井商工会	会長		欠席
民間事業者	洪水 敏孝	(株)J T B 相模原支店	支店長		欠席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道(株) 橋本駅	駅長		出席
	福重 隆一	相模湖リゾート(株) (富士急行(株))	専務取締役		出席